

目的 着用実験より得た各自オリジナル・ベインシック形ドレスパターンの示す各部の基本のゆとりの寸法とその形態を求めることを目的として、構成学上の基準線に焦点をあてて報告してきたが、今回は、胴部側面においてほぼ2等分する位置に前後胴部側面接合基準線として設定される脇縫目線の位置について報告する。

方法 実験方法は第1報以来同様トワールで作製したベインシック形ドレスの着用実験である。但し今回使用したパターンは、JIS L 0102 (1975)の38サイズのパターンである。このパターンの各部寸法は、身長、胸囲の2指定変数から回帰式によって求め作製した。バストラインの寸法は、乳頭位胸囲にゆとり10cmを加え、ウエストラインの寸法は胴囲にゆとり2cmを加えた。被験者はF短大生63名である。

結果 脇縫目線の腋窩での位置が、前・後バストラインの寸法の差をつくっているが、この前後の差の寸法を、パターンのアームホールライン上の前後腋窩点からバストラインに垂線をおろしたその交点から脇線までの距離にしばらくその前後差($\bar{x} = 3.49\text{cm}$ $s = 0.95\text{cm}$)を考えると、この前後差は、肩先点→前腋窩点/肩先点→後腋窩点($\bar{x} = 81.05$ $s = 6.45$)と相関を示し($r = -0.55$)、パターンの前後アームホール寸法の差($\bar{x} = 0.15\text{cm}$ $s = 0.98\text{cm}$)とは $r = 0.69$ を示した。前後バストラインの差($\bar{x} = 2.58\text{cm}$ $s = 1.52\text{cm}$)とパターンの前後アームホール寸法の差との相関係数は0.43であった。